

Muli uli? 最近、村に行っただけの作り方や炭の作り方、植樹などについて見学させてもらい、自分の職種はコミュニティ開発、と勘違いをしつつある看護師の河崎です。気付けばもう2016年が終わりますね。私の今年の年越しはマラウイです。マラウイの年越しは、日本ほど大きな行事ではないようです。キリスト教徒の多いこの国では、クリスマスの方が大きなイベントのようですが、カロンガでは、日本で見られるような、クリスマスソングが流れる、ツリーやデコレーションがされる等の変化は全くなく、クリスマスムード皆無です。(首都やムズズのショッピングセンターにはツリーがありました。想像していなかった光景に感動!)
次回、マラウィアンがどのようにクリスマス、新年を迎えたのかをお伝えしたいと思います。



ポインシアナ (一般名:ホウオウボク)
マダガスカル原産の夏を告げる花。11月~12月頃に咲き、熱帯地域に多く見られる。枝からぶら下がっている豆はネックレス等の材料とされ、お土産として売られたりもする。最近、マラウイ全土でこの花が咲いていても綺麗です。

雑学: この木はオーストラリアではクリスマスの時期に花を咲かせることから、**クリスマスツリー**と呼ばれています。素敵な名前ですね

🌟**隊員達の居住環境 ~電気・水~**🌟

青年海外協力隊員の暮らす環境はどのようなものを想像するでしょうか? アフリカ、最貧国マラウイ。田舎の村で電気も水道もない地域に住んでいる、という姿を想像する方も多いのではないのでしょうか。

実際は、職種や住む地域による、です。首都や都市に住む隊員の中には日本のアパートの様な集合住宅で、家電備え付き(エアコンがある家も!!)の家に住んでいる人もいれば、コミュニティ開発のような隊員たちは農村部に住むことが多いので、**電気・水道無しの家**に住んでいる人もいます。家賃も間取りもそれぞれです。ただ、共通していることは全ての隊員の家は、JICAが定めるマラウイにおける安全基準を満たしていることです。電気がない隊員たちは、電話等の充電に必要な最低限の電気が確保できるように、ソーラーパネルをJICAから借りて生活します。水道がない家に住む隊員は、最寄りの井戸から生活用水を確保します。幸い、私の家には電気も水道もありますが、最近では乾季の終わりということもあり、停電が毎日長時間に渡り起こります。

私の住むカロンガは電気も水もマラウイの中では比較的安定していますが、10月初旬から**1日の半分くらいの時間は停電しています**。そして、停電が長くなると水を送るポンプも止まるので**断水**します。カロンガはこれまで数時間の断水のみですが、首都を含み中部~南部地域は停電も断水も非常に多く、一時期は1日20分のみ電気が戻る日や、断水が5日以上継続した地域もあります。マラウイは雨季に入ったので、これから停電・断水の改善に期待です。



井戸で水を汲む様子。何十Kgもあるこのバケツを持って家まで運びます。

🌟**COMSIP**🌟

最近、同期隊員が活動するマラウイ中部の村、ムタカタカへCOMSIPの活動見学に行ってきました。

COMSIPとは、**COMMunity Saving Investment Promotion** (地域貯蓄と投資の促進)を意味します。多くの割合のマラウイ人の職業は農業です。作った作物もほとんどが家族が食べる分となり、お金を得る手段がなく、貧しい生活を強いられている人が多数です。そこで、地域住民で協力し合って貯蓄をしたり、収入を得る手段としてCOMSIPの活動を行っています。今回は収入向上のための、炭作りと苗木の活動を見学しました。



👉**炭作り**👈

見学させていただいたグループは**バイオマスチャコール**(環境に優しい炭)を作って販売しています。

バイオマスとは、エネルギー源や原料として使うことができる、再生可能な生物由来の動植物資源(化石燃料は除く)の総称です。バイオマスの種類は、木材(木くず)、海藻、生ごみ、紙、糞尿、動物の死骸等です。

この村では木くずから作った炭と蟻塚の土を使用して炭作りをしています。蟻塚はマラウイ全土でよく見られます。蟻塚の土を使うと、普通の土より粘着性が増すそうです。

👉**作り方**👈

木くずから炭を作り、その炭を粉状にします。炭と蟻塚の土を5:1の割合で混ぜ、水を足します。水の量は、炭がチューインガムの硬さになる程度、だそうです。それを1つずつの大きさに分け、手やペットボトルを切ったものを使い、強く圧迫して余分な水分を抜きます。そして、1~2日乾燥させて完成です。

👉**利点**👈

地域にあるもので簡単に作ることができる(生産コストがかからず収入を得られる)。普通の炭と比較し、着火が早い。CO2排出削減、資源の有効活用、森林伐採の削減。

👉**値段**👈

10個で250KW(約35円)で販売。5個の炭で**約10時間**の調理が可能。

👉**苗木**👈

Cassia(カシヤ)という熱帯地域に生息するマメ科の樹の苗木を育てて販売しています。

ドイツの援助団体が環境保全の観点から、この苗木を買い取り、マラウイ各地に植樹しているそうです。

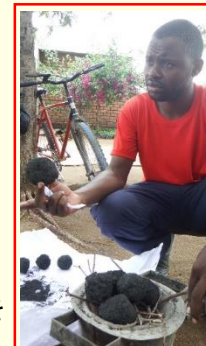
👉**利点**👈

簡単に発芽する、育つのが早い、気候が地域に適している

👉**値段**👈

1本150KW(約20円)

2015年、この苗木による収入は**50,000KW(約7,000円)**だったのですが、2016年は**6,400,000KW(約896,000円)**へ大幅に増加しています。



地域住民のCOMSIP活動の援助を行う
Mr. Blessings Kathumba
写真は炭の説明をしている所
Ministry of Civic Education,
Culture and Community
Development 所属



COMSIPグループの女性達。苗木の手入れ中。

🌟**あなたも青年海外協力隊に!**🌟

12/1、2に首都リロングウェで報告会と安全総会があり、マラウイに派遣されている全隊員74名が集合しました。全隊員が集まる機会は年2回行われる安全総会のみです。総会時に停電が起きましたが、全隊員無反応。日本人がこれだけ集まって停電に誰一人動じない...さすが日常的に停電を経験しているだけあります。

さて、皆さんはこのように発展途上国でたくましく成長できる**青年海外協力隊**に興味はありませんか?

青年海外協力隊の募集は年2回。春と秋です。今年の秋募集では、1182件の要請に対し、応募者1185人で、昨年と比べ応募者数が減少しています。

興味はあるけど資格やスキルがない...という人も、コミュニティ開発やAIDs関連、教育系等の一部は特別な資格や経験がなくても応募できる職種もあります。

足りない知識や技術は派遣前にJICA主催の研修を受けたり、自己にて勉強して補います。

仕事を辞められない...と考えている方、青年海外協力隊には仕事を辞めることなくボランティアに参加できる、現職参加制度というものもあります。

国際協力をしてみたい人、海外で働いてみたい、漠然と何か役立つことがしたい等、少しでも興味がある方はぜひJICAのホームページをチェックしてみてください!



2016年、私にとっては変化と挑戦の多い年になりました。皆さんにとってはどのような1年でしたか? Zikomo通信を読んでくださっている方、HP掲載に関わって下さっている方、本当にお世話になり、ありがとうございました。また、2017年も引き続きよろしくお願致します。それでは皆様良いお年を!!
Zikomo!! Yewo!! Tionanegge.